



第38号 (平成21年12月発行)
東海ノア協定事務局
(原子力機構・原子力科学研究所内)
Telephone : 029-282-5801
E-mail : t-noah@jaea.go.jp

東海ノア通信 第38号 をお届けします。

東海ノアでは「平成 21 年度年間基本活動計画」に基づく活動を展開しております。本号は、東海ノアの日頃の活動を紹介するとともに、協定の目的の一つでもある情報の共有化のための記事も紹介しております。

東海ノア協定に基づく活動状況は、ホームページでも紹介しています。
アドレスは、<http://tnoah.jaea.go.jp/> です。

トピックス

☆活動状況

- ・ 安全協力委員会の開催状況
- ・ 活動推進幹事会の開催状況
- ・ 自主保安に関する協力活動
- ・ 安全教育に関する協力活動
- ・ 情報交換に関する協力活動
- ・ 緊急時に対応するための活動

☆加盟事業所からの事業所紹介

☆今後の活動予定

東海 NOAH :

東海村 (東海)、那珂市 (N)、大洗町 (O)、旧旭村 (A) …現鉾田市、ひたちなか市 (H)

☆活動状況

安全協力委員会の開催状況

○第21回 安全協力委員会

開催日：平成21年10月8日（木）15：00～15：45

開催場所：原子力機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所

主な議題：

- (1) 平成20年安全協力委員会議事録について
- (2) 平成21年度上期(4月～9月)の活動状況と下期活動計画
- (3) その他



活動推進幹事会の開催状況

○第48回活動推進幹事会

開催日：平成21年12月14日（月）15：00～17：00

開催場所：原子力機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所

主な議題：

- (1) 第47回活動推進幹事会議事録について
- (2) 原子力事業所安全協力役員一覧等について
- (3) 第21回安全協力委員会議事録について
- (4) 東海ノア総合訓練実施結果について
- (5) 第1回安全教育研修実施結果について
- (6) 第2回自主保安点検協力活動結果について
- (7) 原子力総合防災訓練(国、県等)に伴う東海ノアの対応について
- (8) 東海ノア通信第38号の発行について
- (9) その他



自主保安に関する協力活動

協定に加盟している事業所を対象に、核燃料物質使用施設、放射性物質取扱施設等の安全担当実務者及び防火管理の担当実務者からなる専門家を派遣し、安全管理について様々な観点から確認、意見交換を行い、安全管理の向上に役立てるための活動を行っております。実施にあたっては、事前に点検協力実施者からの質問事項を提示し、それに対する回答を作成する等の準備を経て点検を実施しました。

○平成21年度第2回目自主保安点検協力活動

今年度第2回目の活動が「日本照射サービス株式会社」を対象に、平成21年12月1日（火）に実施されました。

点検協力実施者は、日本原子力発電株式会社東海・東海第二発電所次長 後藤 均氏、核物質管理センター東海保障措置センター調査役 村山吉信氏、日揮株式会社技術研究所 佐藤 勝彦氏の3名でした。

活動内容は、現場巡視確認及び点検シートに基づいた質疑・応答（安全確保のための基本的考え方、安全管理年度計画と安全文化の醸成、安全管理・保守管理、緊急時体制等）でした。

点検協力実施者からは、従業員数40名の事業所にも関わらず、労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、職場のリスクアセスメント活動の推進を図っていること、施設内全体がきれいで良く整理されており、また現場で会う社員が率先して挨拶していて社員教育が行き届いている

等の感想を得ております。



事業所の対応者（右側）と
意見交換する
点検協力実施者（左側）

安全教育に関する協力活動

○安全教育研修

平成21年11月10日(水)に平成21年度第1回安全教育研修が、日本原子力科学研究所 東海研究開発センター 原子力研修センターで行われました。

研修では、放射性物質のいろいろな性質、核燃料サイクル等の講義があり、各種放射線及び空気中の放射能濃度の測定実習を体験しました。

この研修カリキュラムは基本的な知識の習得を目的としていますので、事務系の方、特に女性の方々もご参加できるような内容です。



講義中の様子



実習中の様子

情報交換に関する協力活動

○品質月間講演会の開催について

①品質保証における「有効性」

～品質マネジメントシステムをあらためて考える～

（講師：活き活き経営システムズ代表：国府 保周氏）

平成21年11月13日（金）アトムワールド講堂で講演会を開催しました。

品質保証活動が形骸化せず、有効に機能しているか否かは、マネジメントシステムを積極的に活用しているかどうかに関がります。現状を打破し、更なる改善を進めて新しいものを作り出していくことの必要性について他企業の実例で解説されました。

講演後のアンケート結果から、判り易く使いやすいシステムにしていくために、自ら何をしなければならないか、再考するきっかけになったと考えられます。

この品質月間講演会には、約130名が参加し、東海ノアからは1事業所1名が出席しました。



講演会の様子

②「研究施設の品質と安全文化」

ー施設管理の第六感、ピーンときたらー

（講師：財団法人 原子力安全研究協会 理事長：松浦 祥次郎氏）

今年も品質月間の取組として、11月20日（金）原子力機構、原

科研大講堂にて講演会を開催しました。（参加者は 278 名）

今回の講演者は、旧原研理事長で現在は財団法人原子力安全研究協会理事長の松浦祥次郎氏でした。品質月間にちなんだ内容、そして安全文化・法令遵守を含めた内容にいただきました。

講演のテーマは「研究施設の品質と安全文化」（施設管理の第六感、ピンときたら）で、一方的な話ではなく、対話的な講演にしたいとの講演者の要望で、1 時間の講演後、30 分の質疑応答としました。その結果、多くの方の質問があり時間をオーバーする程盛況でした。

この品質月間講演会には、東海ノアからは2事業所2名が出席しました。



講演会の様子

○原子力事業所安全協力協定加盟事業所の防火講演会の開催について

①「火災の発生状況と予防対策」

（講師：総務省消防庁消防大学校 教授 久保田 幸雄氏）

11 月 27 日、原子力機構核燃料サイクル工学研究所において、平成 21 年度秋季全国火災予防運動期間中の行事の一環として、総務省消防庁消防大学校教授 久保田幸雄氏による「火災の発生状況と予防対策」について防火講演会が開催されました。

写真、図等により、電気火災のメカニズム、電気火災の予防、火災で一番怖いのは炎より「煙」であること及び正常化の偏見等について、従業員等 113 名の参加のもとに講演されました。東海ノアからは5事業所5名が出席しました。

講演は、具体的な事例をもとにしたわかりやすい説明で、特に、トラッキング、ジュール熱の実験映像から、職場に限らず、日常生活でも起こり得る事象であることを実感したこと、また、煙は垂直方向に早く、一酸化炭素を含んでいるということなど火災予防に大変参考となりました。



講演会の様子

○原子力事業所安全協力協定加盟事業所の訓練見学について

①11月4日（水）に高温工学試験研究炉施設（HTTR）を発災施設として、地震を起因とした火災及び汚染を伴う負傷者の発生等、複合災害を想定した今年第2回の総合訓練を実施しました。今回の訓練では、自衛消防隊と大洗町消防本部の連携した消防活動訓練として、地震による構内消火栓の破損状況下において、他の水源から可搬型ポンプを介して大洗町消防本部と自衛消防隊の各消防車2台を直列に配置して給水を受ける消防活動を実施し、水源から遠い場所でも消火活動が可能であることを検証しました。また、発災現場において負傷者の応急措置及び大洗海岸病院と連携した緊急時被ばく医療活動訓練を行い、地震災害により大洗町消防本部から救急車が出動できない状況で現場での医療活動訓練、所の救急車による搬送訓練等の実動訓練を行いました。今後ともより実践的な訓練を行うことにより、大洗研究開発センターの緊急時対応能力の向上を図る計画です。

この総合訓練に職員等1280名が参加し、東海ノアからは3事業

所4名が見学しました。



訓練の様子

②核燃料サイクル工学研究所では、11月11日に茨城県立消防学校との合同訓練を実施しました。これは、消防学校救助科の特殊災害（原子力災害）対応訓練の一環として実施するもので、実際の原子力事業者であるサイクル研と合同で訓練を行うことにより、災害時の迅速な対応の体得及び事業者との連携確認を目的としております。なお、この訓練は平成14年度から実施しており、今回が8回目となります。

今回は、①管理区域内火災救助訓練、②核燃料物質輸送時における事故救助訓練、この二つの訓練をそれぞれ午前と午後に行いました。朝から強い雨が降るという悪条件の中での訓練でしたが、悪条件であるが故の課題等も見つかり、大変有意義な訓練となりました。この合同訓練に、東海ノアからは1事業所1名が見学しました。



訓練の様子

緊急時に対応するための活動

○東海ノア総合訓練

平成21年10月20日（火）に、三菱原子燃料株式会社を発災想定事業所とした東海ノア総合訓練を実施し、緊急事態協力活動本部員等7事業所32名（協力活動本部員25名、モニタリングカー要員として、原科研2名、サイクル研3名、ノア事務局2名）が参加しました。

今回の訓練では、東海ノア協定に基づく環境モニタリングの協力要請があり、緊急事態協力活動本部の設置、活動方法の検討及び原科研、サイクル研モニタリングカーの出動を東海ノアとして初めて行い発災事業所周辺の空間線量率及び空气中放射性物質濃度測定を行い、発災事業所へ連絡するまでの訓練を実施しました。



訓練の様子

☆加盟事業所の紹介

安全管理及び従業員に対する教育の取り組み状況

三菱マテリアル株式会社

エネルギー事業センター

那珂エネルギー開発研究所



1. はじめに

三菱マテリアル株式会社は 1954 年から原子力の研究に着手し、那珂エネルギー開発研究所は、1984 年 7 月に中央研究所（当時、現在の埼玉県さいたま市に所在）の原子力部門が独立し、那珂原子力開発センターとして現在の那珂市に設立されました。2003 年 10 月に那珂エネルギー開発研究所に改称され、現在に至っています。那珂エネルギー開発研究所では現在、ウランの製錬転換、燃料加工、再処理、廃棄物処理及び廃棄物処分などの原子燃料サイクル全般について研究開発を行っています。

2. 全社的な安全確保の取組み

当社では、安全確保の取組みとして、

○社員全員が日常遵守すべき行動指針：『私たちの行動指針 10 章』を策定し、法令遵守・安全優先で社業に取り組む姿勢を具体的に示しています。

○社内各事業所間で相互に行う社内安全衛生監査を年一回実施しています。

○原子力に関する一層の安全確保・危機管理を目的として、社長を委員長とする「原子力安全対策委員会」を設置し、関係会社を含めた原子力施設を有する事業所を対象に、原子力安全監察を実施しています。

○安全ルールを遵守させ、かつ安全ルール違反を行なった者に再び同じことを繰り返させないよう指導・教育を第一義とする、「安全ルール違反

への対応指針」を策定し、平成 21 年 4 月から適用を開始しています。
○労働安全衛生マネジメントシステムについては、全場所で平成 22 年 3 月構築完了を目標として活動しています。

3. 那珂エネルギー開発研究所の安全確保の取組み

当研究所での安全確保の取組みとして、

- (1) 当研究所のトップによる研究所運営方針並びに安全衛生に係る年間目標及びスローガンを所内随所に掲示し、「安全第一」「法令遵守」等の基本方針を全従業員に周知するとともに、全国安全週間、全国労働衛生週間に合わせた全員集会を開催し、安全確保や職場・周辺環境保全についての研究所トップの姿勢を直接所員に示しています。
- (2) 不安全行為や危険個所の芽を摘むために、衛生管理者パトロール、所長パトロール、産業医パトロール、安全衛生委員パトロール、安全週間及び労働衛生週間パトロールを実施し、指摘事項に対する処置結果ついて安全衛生委員会にて報告することとしております。
- (3) 原子力産業だけでなく広く一般産業にまで範囲を広げた事故事例を取り上げ、その原因と対策を検討し、専門家による原因と対策と比較する「事故事例研究会」を毎月定期的に開催しています。研究会への出席は職場ごとに毎回異なったメンバーが参加することとしています。
- (4) 全社的安全確保の取組みの一環として、
 - ① 平成 20 年度の社内安全衛生監査の推奨・指摘事項として挙げられた、ヒヤリ・ハットの顕在化を図るための活動として、ヒヤリ・ハット・キガカリの報告をしやすいルールに変更し、平成 21 年 10 月から適用としました。
 - ② 安全ルール違反への対応指針に基づき、「安全ルール違反に対する対応要領」を作成し、平成 21 年 4 月から運用開始としました。
 - ③ 労働安全衛生マネジメントシステムについては、平成 20 年 10 月に「労働安全衛生マネジメントシステム規程」を発行し、平成 21 年 10 月に同規程に基づく導入教育を従業員に対し実施しました。

(5) 万が一の場合、的確、迅速な初期行動で事故・災害による被害を最小限にとどめるべく防護班（自衛消防組織）を組織しています。また、休日・夜間における防護班員の招集は、電話回線を使った非常順次通報装置により行い、より速く出動できる態勢を取っております。

これらの活動を通じ、全員がベクトルを合わせ一丸となって無事故・無災害に取り組んでいます。

4. まとめ

那珂エネルギー開発研究所は開所以来25年間無災害で今日まで推移しております。今後とも無災害記録更新に努力して行く所存でありますので、東海ノア協定加盟事業所、地元の皆様からのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

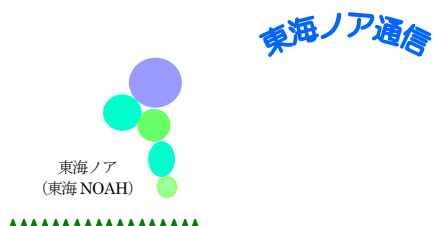
☆今後の活動予定

- ・第49回活動推進幹事会・・・・・・・・・・・・・・ 2月
- ・第2回安全教育研修会・・・・・・・・・・・・・・ 2月
- ・第22回安全協力委員会・・・・・・・・・・・・・・ 3月

編集後記

時代のせい、最近、軒下に柿を干す姿もめっきり見なくなりましたが、我が家では5個を天日、5個焼酎につけてから天日干しにして、おいしくなるか試しております。

東海ノア通信の目的である「情報の交換・共有化」を行いながら、皆様の参考となるように趣向を凝らして行きたいと考えています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。



東海ノア通信

記事の中で、「日本原子力研究開発機構」は「原子力機構」と略称で記載しております。